
変態？あ、それ俺だ!!

主人公を引き立たせるのは脇役！

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

変態？あ、それ俺だ！！

【Nコード】

N1876Z

【作者名】

主人公を引き立たせるのは脇役！

【あらすじ】

連載にしてみました。最低でも一ヶ月に一回更新を目指します！

第1話『変態初動』(前書き)

短編の話をそのまま一話にしました。

第1話『変態初動』

チュン、チュン

ああ、今日もいい天気だ。

さて、着替えて学校に行こう。

え〜と、俺の名前は、山田 和真だ。よろしくな。

俺が住んでるこの町は、完菜町は、何処にでもある普通の町だ。
人口？んなもん知るか！！

？「おい。和真！！起きてるか？今日は、普通の格好だよな？」

おっと、向かえが来たようだ。上にカッターシャツとを着て下半身には、ふんどしをはいたから良いと。

和『おう！！今から出るわ。それとちゃんと人前に出れる格好だ！！』

？「そうか。早く出てこい。」

では、あの世にいる俺を庇って代わりに死んだお母様。今日もあなたの息子は、元気に生きてます！！
それじゃあ、行ってきます。

ガチャ。

ドアを開けたら太陽が眩しく光っている。

鳥も元気よく飛び、野良犬も元気に走り回っていた。

そして、俺んちの玄関の前で啞然とした幼馴染みの周防 俊がいた。

俊「お前！！馬鹿か！！」

怒鳴られた。

俊「何で！？上は、ちゃんとした格好なのに下は、ふんどし一丁なんだよ！？」

和「嫌だってふんどしは、男をかつこよく魅せるアイテムの一つじゃない。」

俊「どつからツッコンでいいかわかんねえ！？」

和「ということで、学校に早く行こう。」

俊「お前と何か隣を歩けるか！！その前に国家権力に捕まるから！！」

何だと！？仕方ないか。ズボン履いていこう。

和「ちょっと待ってて。ズボン履いてくるから。」

俊「そうしてくれ。」

俊「お前は、どうしてそうなんだ!!」

登校中俺は、俊に説教せれながら登校していた。

和「いや、人間は、個性が大事じゃん。」

俊「お前の個性は、濃すぎるんだよ!!」

和「分かった、分かった。ところでもうすぐ夏だから水泳があるから合法で水着が見れる季節だよな。最高だね!!」

俊「お前!!全然人の言うこと聞いてないだろう!!」

和真と俊と漫才をしながら登校するのは、何時もの光景である。

完菜高校 公立高校である。普通の学校に見えるがそうじゃない。

ここは…

和「ここは、体操服の半ズボン、ブルマだからな。それに男女合同の水泳の授業もあるからな。ああ、最高だね。この学校!!」

俊「懲りてねえ!!てか悪化してる!？」

俊、残念だったな。男の原動力は、エロなんだよ!!本能には逆らえないんだよ。男は!!

和「それに最近、ブラが透けて見える季節でもあるからな。」

俊「もう駄目か。」

俊君の言ってることなんてキコエナイナ。

？「あなた。また変な妄想でもしてるの？」

ッ！？この声は！！

佐伯 楓さん。

髪は、綺麗な黒でそれをポニーテールしてる。目も黒だ。

この人は、風紀委員だから変態である俺の事を危険視している人だ。

え？変態の自覚は、あったのか。

違うよ。変態と人くりにしないで欲しいな！！

俺は、ただ欲望のままにエロに手を染めてるだけの一般人だ！！

俊「それを世間一般では、変態って言うんだぜ。」

和「何？俊は、超能力者か！？」

楓「違うわよ。山田君が勝手に独り言で喋っただけよ。」

チッ！！間違っただけに出したか。

それにしても、楓さん。

和「楓さん。高校生になっても白パンなんて履いてるんですか？」

俊「ぶはっ！！！」

楓「なっ…！？／＼／」

和『可愛いですけど、もうちょっと大人っぽいやつをってうお！？』

楓さんは、いきなり俺に向かって竹刀を降り下ろしてきた。

てか、竹刀なんて何処に持ってた！？

とにかくやばい！！ここは…

和『戦略的撤退！！』

楓「待ちなさい！！今日という今日こそは！！」

俺と楓さんの鬼ごっこが始まった。

取り残された俊は……

俊「先に教室に向かうか。」

和真を置いていくことにした。

2年1組

俊「和真。お前よく無事だったな！！」

和『し、死ぬかと思った！！』

あの鬼ごっこから和真が生還して帰って来た。

俊「それにしても、よく逃げてくれたな。」

和「逃げ回ってたら使っていない空き教室があったからそこに隠れて難を逃れた。』

俊「そうか。そいつは、ラッキーだな。」

和「ああ、ラッキーだった。』

二人でさっきの事を話していると、二人に近づく影が…

? 「俊君に和真君。おはよう。」

俊「ん、ああ、那須か。」

和「ああ、陽花か。』

ん、陽花の説明。めんどいからパスしていい。
駄目だよな。

那須 陽花

俺の二人目の幼馴染みだ。栗色の髪をショートにしている。胸は、残念だ。

陽「和真君。何か失礼な事考えてない?」

和「相変わらず、残念な胸だな〜って』

ズドンッ!!

バキッ！！

陽花のパンチで机が壊れた。
恐ろしい娘。

俺は、避けました。

え？俺なんかどうでもいい。何か酷くない？

陽「何時も、何時も和真君は、人の気にしてることを！！！」

そう言つて俺に殴りかかってくる陽花。

そこで俺がとつた行動は？

和「おお！！水色か！！しかもレース！！」

陽「にやあああ！！？」

それを避けてスカートの中を堂々と覗いた。

陽花は、俺がとつた行動に気づいて悲鳴を上げた。

和「下着は、いいな。下着は！！！」

下着はを強調して大声で言った。

陽「最低だよ。和真君！！！」

和「え、褒めてる？」

陽「褒めてない！！和真君は、人の悪口やツッコミをすぐ褒め言葉

に変えようとするんだから。」

和『よ、陽花／＼突っ込むなんてそんな言葉を言うなんて。』

陽「その突っ込むじゃないよ!!」

和『どの突っ込むだ!!』

陽「ポケとツッコミのツッコミだよ!!」

和『まあ、だろうな。』

陽「むかつく!!」

和『くふふふ。あははははははは。ひはははははははははは!!』

陽「俊君!!どうにかならないの!!あれ!!」

俊「どうにもならん。」

こんな感じで学校の時間は、過ぎていく。

今日、体育がないから暇!!

放課後だ!!

陽「じゃあ、私は、部活だから。」

陽花は、テニス部に所属している。

和「ねえ、陽花。テニス部ってブルマ履く?」

陽「履かないよ!」

和「チツ!とつとと部活に行け!役立たず!」

陽「酷くない!」

そう言っつて陽花は、部活に言った。

俊は、買い物があるので帰った。

俺一人か。エロ本買って帰る。いや、下着ドロか。いや駄目だ!!
同士がない。

そんなことを思いながら帰路についた。

そこの途中で変な人に会った。
でもその出会いが……

?「ど、どいて〜お願いどいて!」

リヤカーで坂道を猛スピードでかけ降りてきて俺は、それに轢かれた。

和『ごぶっ!!』

?「あ、あの大丈夫ですか!?!すっかりしてお願いだから。」

俺は、銀髪を腰まで伸ばした同年代の女の子に揺さぶられていた。それにしても、俺を揺らすたび揺れるおっぱいは、反則でしょ!!!

和『だ、大丈夫だ!!』

?「よ、良かった。起きて。」

和『ところで何でリヤカーで爆走してたんですか?』

?「実は、道にリヤカーが置いてあってももしかしたら誰かが置いたかもしれないし盗まれたらその人が可哀想だからリヤカーの中で見張ってたんだけど。それで気がついたら」

和『リヤカーが爆走してた。』

?「はい。」

………この人天然だ!!しかもこういうタイプは、頼まれたら嫌とは言えないタイプか。

和『あの。』

?「はい?」

和『パンツ見せてくれませんか?』

?「え、ええええええええ!? / / / だ、駄目です!? / / /」

チツ!! やっぱり駄目か。だったら…

和「だったら、そのけしからんおっーごほん、名前を教えてくださいませんか。」

?「は、はい。私は、叶 翔子です。」

和「俺は、山田 和真です。」

翔「は、はい。よろしく和真君。」

和「はい!!」

俺は、巨乳美人の叶 翔子と知り合いになった。

翔「それじゃあ和真君、私は用がありますから、帰ります。」

和「ん、ああ、それじゃあ翔子さん。」

さて、爆走したりヤカーに轢かれたダメージがあるみたいだから帰ろう。

また明日も平和でありますように。

第二話『変態之末路』(前書き)

連続投稿

第二話『変態之末路』

あの、リヤカー女子との笑撃の出会いから一日後。

俺は、学校にいた。

俊「お前。保健体育の授業以外寝てただろう。」

俺的には、保健体育一つでも受けたから充分だと思っ。

さて、今から陽花を使って18禁の妄想でも

陽「和真君。今変な妄想してない？」

チツ！！流石陽花だ。俺の考えがまるで読んでいるようだ。

俊「おいおい、無理だろう。流石にこいつがこれ以上の進化を遂げ
ることはまずない。」

陽「そうだよね。」

こいつら！！俺をなめてやがる！！

仕方ない。これ以上の進化は、必要ないと思ったがお前らがそこま
で変態をなめているなら見せてやろう。エロと欲望が可能にした真
の変態の扉を開けてやろう！！

陽花のカバンは……あつた！！

体操服と一緒にあれが……あつた！！

ではさっそく。いただきます!!

和『陽花。』

陽「何？和真君。てなにやってるの!？」

.....これが陽花が履いたブルマの臭いか。

和『これは汗の臭いか!!陽花』

陽「にやあああああ!?!?!」

和『危な!?!』

陽花のパンチが今、一瞬消えた。

俺の幼馴染みは、化け物か？

俊「おい、マジかよ!?!?!ここに来て変態が進化しやがった!?!」

和『ふむ、ブルマを始めて臭ったが癖になる!?!』

陽「か、和真君ノノ返してよう。私のブルマノノ」

和『やだ。それとこのブルマ。陽花の体臭が染み付いて甘いい臭いがする。』

陽「にやあああああ!?!?!もうやめてええええ!?!?!」

その瞬間、クラスの男子全員が鼻血でアーチを描いた。

俺は、陽花のブルマを頭にかぶりその場から走り去った。

陽「和真君！！私のブルマ被らないで！！／／／」

俊「あれが進化事故か。」

陽「俊君も冷静に分析しないで!？」

三階廊下

ブルマを被ったがなかなかいいなこれ。

通行人の冷たい視線も最高にゾクゾクする。

やばい！！変態じゃなくて今、人間として最低のところにいるわ。

俺WWW

楓「あ、貴方!?!?いったい何をやってるの!?!?!」

和「楓さん。愚問ですよ。ブルマを被って暴走してるだけです!?!」

俺は、それを胸を張っていった。

楓「貴方って人は!?!」

やばい！！楓さんが変態討伐モードに入った。

和「俺は、」

楓「俺は？」

和「逃げ切ってみせる！！」

逃走開始！！

楓「私が貴方をニガストデモオモッテ！！」

ヒイイイ！！女ってこえええ！！

目に光りが灯ってない！！

和「俺は、この戦利品フルマだけは、守ってみせる！！」

楓「
————！！」

ひい！！楓さんがついに人語さえ止めたよ！！
何あれ呪いの呪文か何か！？

和「エロは、永久に不滅だああああ！！」

楓「
——！！」

陽「
——！！」

和「て、増えてる！！しかも狂戦士モードかよ！！」

畜生！！俺は、俺はああああ！！？

ギアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアアア！？

変態の断末魔は、学校中いや、街中に響き渡った。

第参話『変態復活』(前書き)

短いですけど、どうぞ

第参話『変態復活』

あれ、俺は、確かあの二人に半殺しにされたんだっけ。

死んだのかな？まあ、こうやって考えことが出来るから生きてるんだろう。

さてそろそろ起きるか。

和『廊下に放置かよ！！』

さんざん殴つといてその上放置かよ！！
せめて保健室に連れていくぐらいしろよ！！

て、外真つ黒！！もう夜かよ！！

あいつら、覚えてろよ！！

もちろん俊も含まれる。

俊が含まれる理由？

あいつ、イケメンだから！！

ん、電話か。

和『もしもし。』

俊「おい、起きてるか。和真。」

俊か…

和『ノロイコロシテヤル』

俊「待て。話をしよう。」

和『明日お前の机の上に下着やブラジャーを置いてやる!!』

俊「ちょ!!待て!!そんな事されたら社会的に俺が死ぬ!!てか何でお前が下着やブラジャーを持ってるだ!？」

和『そんなの決まってるだろう。』

俊「まさか盗んだのか？」

和『俊。お前そんな風に見ていたのか?』

俊「さつき、人のブルマ被って暴走してたやつは、誰だ?」

和『まあ、そうなるよな。』

俊「で?何で下着やブラジャーをお前が持つてるんだよ?」

和『妹や母親の』

俊「お前に妹がいたのかよ!？」

和『ああ、いるよ。けど妹にはすっごく嫌われてるけど。』

俊「まあ、肉親の中に変態がいたら、俺でも嫌うからな。」

和『いや、変態のところは、兄さんの個性だからという理由で受けいられてる。』

俊「お前の妹何なんだ!？」

和「実は、すき焼きには豚か牛かで喧嘩してそれ以来話もしてない。」

俊「喧嘩の理由、果てしなくくだらねえ!！」

和「まあ、とついうことで置いとくわ」

俊「止める!！やめてくれええええ!！」

ぷちっ!！

さて、俊の机に置いていこう。

何で妹や母親の下着やブラジャーを持っているかって？

下着やブラジャーは、普通にカバンにいれてくる物の一つだろう

第4話『変態家族』（前書き）

エミヤさんの無限の剣製は、チートすぎる。

金ぴか王なら許せる。

慢心して実力の十分の一も出せずに勝手に負けそうだから許せる。
けどエミヤさんまじチートw

第4話『変態家族』

さて、帰るか!!

え？俊の机に下着を置いてきたのだった。

置いてきたよ。俺のをな!!

まあ、体操服のズボンを置いてきたただけなんだけどね。一週間ほど洗ってないやつ。

さて、またリヤカーが暴走してない事を祈りながら帰る。

無事暴走してなかったよ。良かった良かった。

さて、妹がいるから気まずいな。

土下座で謝るか。

プライド？そんなもん生ゴミの日に捨ててきた。

和『ただいま』

？「あ、お帰りお兄ちゃん」

笑顔で出迎えてくれたのが、山田 愛

ところで余談になるが妹の名前の由来は、愛される子になるように。俺は、名前をつけるときに父親が数の子って美味しいよねって言うて数の子に近い数にしようとして母親がカツコ悪いと言い、数馬になり、これでも、見映えが悪いという理由で和真になった。俺の名前のつけ方酷くねえ？

愛「お兄ちゃん。今日はすき焼きだよ。」

え…

和「愛。すき焼きって肉の種類は？」

俺は、安い豚肉だけど何か？

愛「豚肉だよ。」

和「いいのか。牛肉じゃなくて…」

愛「うん。だってお兄ちゃん。豚肉の方が好きなんでしょう？」

和「はい！！」

愛「前、お兄ちゃんとは喧嘩しちゃったから今日はお兄ちゃんの好きな豚肉ですき焼きを作ろうと思って。」

和「ありがとうございます。愛！！」

愛「だから、出来るまで待ってっね。」

和「待つときます。」

愛は、キッチンの方に行った。

俺には出来すぎた妹なんだけど。

そつえば、今の母親は、義理の母親だ。

父親が再婚したから。

父親は、出張が多く母親もそれについていくためよく家をあける。

それと父親は、変態じゃない。

俺の血の繋がった母親の話は、また今度な。

俺は、今、高2だ。愛は、中3だ。

出来るまで俊と話そう。

俊の携帯番号は…

プル、ピッ

俊「もしもし!!」

1コールで出たよ!!

和「もしもし。俺だよ。俺」

俊「和真!!お前本当に置いたのか!？」

和「え?置いてないよそんなもん。」

俊「そうか、良かった。」

まあ、別の物なら置いてきたけどな!!

俊「で、なんか用か？」

和「別に」

俊「切るぞ。」

和「待った。今、妹がすき焼き作ってるから暇なんだ。」

俊「お前の妹。料理出来たんだな。」

和「何だその言い方は!!」

俊「いや、お前の妹だからきつと変態と思ってな。」

和「流石に怒ったぞ。いいだろう。妹が変態ではないことを証明してやる。」

俊「どうやって?」

和「愛。ちよつと来てくれ。」

俺は、俊との通話をやめ、愛を呼んだ。

愛「お兄ちゃん。何?」

和『俺の友達だ。挨拶してくれ。』

愛「うん？」

愛は、？をだしながらも頷いてくれた。

愛「もしもし」

俊「お前が和真の妹か？」

愛「はい。愛と言います。お兄ちゃんが何時もお世話になってます。

」

俊「はっ！！」

愛「え？えくと？」

和『ありがとう。愛。代わってくれ。』

愛「うん。お兄ちゃんに代わります。」

俺は、愛から携帯電話を受け取った。

愛は、キッチンに戻った。

和『もしもし。』

俊「誰あれ？」

和『妹』

俊「お前の？」

和「俺のだ。」

俊「う、嘘だあああああ！？」

和「おい！！俊！！………駄目だ切りやがった。」

愛「お兄ちゃん。晩ごはん出来たよ。」

和「行きます！！！」

まあ、今は俊より愛が作ったご飯だ。

和「いただきます！！！」

愛「召し上げね。」

庶民の俺にはやっぱり豚肉だな。

愛「お兄ちゃん。」

ふと愛が俺を呼んだ。

和「何だ。」

愛「お兄ちゃんって危ない変態なの？」

その瞬間俺は、自分の耳を疑った。

和『危ない…？』

愛「お兄ちゃんが変態なのは知ってるよ。」

てか妹に変態と見られてる俺って一体？

愛「お兄ちゃんってストーカー？」

和『待とうか。話し合おう。』

ストーカー？何を言っているんだ。

和『ただ俺は、人より恋愛の仕方が違うだけだ。』

愛「危ない変態じゃないんだね。」

和『そうだ。危ない変態じゃない。』

何だ危ない変態って？

あー！犯罪行為に手を染める変態の事か！！。

おまけ

愛「そついえばお兄ちゃん。」

和『何だ？』

愛「最近、私の下着がなくなるんだけど、知らない？」

和「知らない。」

知らないっしたら知らない！！

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1876z/>

変態？あ、それ俺だ!!

2011年12月8日23時51分発行